

日本チェロ協会主催 チェロ・コンGRESS ・イン・ジャパン2011

開催報告

2011年2月11日～13日の3日間、日本チェロ協会主催の「チェロ・コンGRESS・イン・ジャパン2011」が開催されました。

「世界はもっと響き合う…」というタイトルのもと、多くのチェリスト、チェロを愛好するみなさまが一堂に会し、全てのプログラムでチェロを満喫。大盛況のうちに幕を閉じることができました。

以下、3日間の様子をご報告いたします。

2月11日(金・祝)

<11:00> 大アンサンブル・リハーサル

いよいよコンGRESSの初日です。コンGRESSの最初の大仕事は、12日のアンサンブル・コンサートのアンサンブルのリハーサルを前に、ご出演・ご参加の皆様にまず無事にサントリーホールにご入館いただくことでした。

大ホールの舞台上、一度に弾く人数は約130人です(入れ替え約50名、総勢約180名)。その130人の方が、それぞれの席に着いたり、移動を確認したり、と演奏する前にも一仕事です。

無事に確認が済むと、まずは、前半の曲のリハーサル開始。プロのチェリストが加わる初めての練習だったので、多くの参加者の方は、音の違いに驚いたと仰ってい

ました。

途中、前半と後半のメンバーの入れ替えがあり、12時30分から後半3曲のリハーサルを行いました。

参加者の方は「参加者パス」をお持ちなので、このあとご出演以外のコンサートでは、お客様としてご来場いただくことになります。

<18:30> オープニング・コンサート

チェロ・コンGRESSの公式イベントは、バッハの無伴奏組曲の全曲演奏会で始まりました。雪の影響でお客様の入り具合が心配でしたが、自由席ということもあり、開場時間の前から長蛇の列となり、多くのお客様にご来場いただきました。もちろん、昼間のリハーサルに参加されたほとんどの方もお客様として再びご来場くださいました。

くしくもベテランと若手が交互に第1番から6番まで順に演奏するというので、その比較もさることながら、



第1番 岩崎洸さん



第2番 岡本侑也さん



第3番 倉田澪子さん



第4番 中木健二さん



第5番 鈴木秀美さん



第6番 加藤文枝さん

演奏者それぞれの個性、曲の解釈／アプローチの違いが非常に鮮明であり、どの演奏も素晴らしく思わず引き込まれて、あっという間の6曲でした。

6曲終わった頃には、21時30分を過ぎていましたが、無事に1日目終了となりました。

2月12日(土)

<9:30>

大アンサンブル・リハーサル

2日目も、大アンサンブルのリハーサルから1日が始まります。本番当日、演奏会場である大ホールでの初めてのリハーサルです。客席にケースを置いていただき、前半・後半のみの参加の方には交代で舞台にあがっていただきました。

オルガンも加わり、いよいよ本番へ向けて、緊張感が高まります。

<10:00>

親子チェロ教室

コンGRESS 2日目の最初のイベントは「親子チェロ教室」です。会場は、サントリーホールの「ロビー」で、入場無料。どなたでも自由にお入りいただけるイベントです。早い時間にも関わらず、多くの親子連れなどで賑わいました。

東京交響楽団の長谷部一郎さんの演奏とお話、才能教育のお子さんたちの演奏（ソロ演奏と50人以上のチェロアンサンブル）をお聴き頂いた後は、「チェロ体験」として、実際に楽器に触れていただく時間を設けました。チェロに触れたり、チェロと記念撮影(!)する方もいらっ



親子チェロ教室

しやり、多くの方にお楽しみいただきました。

<13:00>

ヤング・チェリスト・プロジェクト

このプロジェクトは「若手の演奏家に場所と時間枠を提供して、コンテンツは全て任せてしまおう」という発想でスタートしたものです。前号の会報でもお伝えしたとおり、出演者や選曲の取りまとめ役の高木慶太さんに一任という形で準備が進められました。

その結果、「チェロ・デュオ（二重奏）」という、通常の演奏会ではあまり取り上げられない、また一般の認知度も決して高いとは言えない曲が並ぶ演奏会となりました。しかし、演奏の開始と共に、曲の素晴らしさが一目（耳?）でわかる素晴らしい演奏で、大いに盛り上がりました。

アンサンブル・コンサートのリハーサルのスケジュールの関係で、最後の2曲を残して客席から出演者がぞろぞろと退席してしまい、状況を知らない一般のお客様は、一体何が起きたのだろうと思ったことでしょうか。ですが、退席せざるを得なかった人は全員、後ろ髪を引かれる思いで退席したということのを是非伝えて欲しい、とのことでした。



(左) 伊藤文嗣さん
(右) 高橋麻理子さん



(左) 小野木遼さん
(右) 清水詩織さん



(左) 高木慶太さん
(右) 加藤陽子さん

<14:15>

大アンサンブル・リハーサル（ゲネプロ）

アンサンブル・コンサート本番前の最後のリハーサルです。出入りの練習・全曲通しての練習をし、残る演奏は本番のみとなります…！

<15:30>

オケスタ

2日目は急ぎ足でスケジュールが進みます。大アンサンブルのリハーサルを終えたの多くがオケスタの「受講生」として参加。また、3日間通しパスをお持ちの方なども「聴講」に来てくださり、活気あふれるプログラムとなりました。

以下、企画・司会を担当した、会員でコンGRESS実行委員の藤井直さんのレポートです。



長谷部一郎さん





アンサンブル・コンサート 大アンサンブル演奏

ンブルでサントリーホールのステージに立てる！ということで、何のためらいもなく、すぐに申し込みました。石島さんの楽譜および音源整備と配布、東さんをはじめとする事務局関係者の綿密なご準備があって、安心して当日を迎えることができました。

100名を越すプロ・アマ混成のアンサンブルは、なかなかあわせるのが難しいのではないかと感じておりましたが、山本祐之介先生の「巧み」な指揮と話術で数回の通しでみるみる仕上がってゆくのはさわやかですらありました。本番ステージでは、先生方を含めメンバーの心が1つになってハーモニーの渦になり、大変幸せでした。チェロを弾いていてよかった、チェロ協会の会員でよかったと心から思います。また、チェリスト同士の横のネットワークも拡大しました。このような機会を提供いただき、感謝しております。今後も、このような魅力ある企画をお願いいたします。



久保田ひとみさん (R-316)

プロアマ総勢180名によるコンサート企画を耳にした時、あの「サントリー大ホールで演奏？」と現実から離れ過ぎることなので俄かには信じ難いものでした。其のうちご案内状が届きキャリアも実力も乏しいのに、それは棚上げして参加したい気持ちが膨らみました。余りのスケールの大きさ・曲目に腰が引けていましたが、家族の励ましを得て、“怖い物見たさ”のような思いで応募させて頂きました。楽譜の到着後は、これ程練習したことは無いと思う位チェロと共に日々過しました。本番前に



指揮：山本祐ノ介さん

サントリーホールへ何回か参りましたが、耳より目がステージのあちこちへ向いてしまったり、沢山のチラシの中にコンGRESの一際目を引く、洗練されたチラシを見つけては周りの方の反応を覗いたりしていました。

当日、リハーサルの際は未だ実感無く、客席一杯に並んでいる色とりどりのケースがオブジェのように目に映るばかりでしたが、本番では、「ヒムヌス」の旋律が流れ始めた時には鳥肌が立ちました。曲も進み、後半になると弾いている実感が沸き、不可能と思った「サルダナ」もお隣がプロだったお蔭で落ちること無く弾く事が出来、最後の「ラ・シーヌ讃歌」では天井から降るようなパイプオルガンの音に胸を熱くし夢の真ん中に確かに居ました。

プロの先生達のご理解と温かな優しさに包まれ、又サントリーホールの職員の方達、スタッフの皆様の見えないうちで大変なご配慮を随所に感じ、支えられつつ夢のステージで演奏させて頂きました。高らかな「ブラボー」を耳にしつつ指揮の山本先生始め多くの方から「諦めない、諦めない」と励まされ諦めず本当に良かったと心底思います。演奏者の何方もが満足に満ち溢れた最高の笑顔で素敵でした。あの日、あの時間わられた全ての方達と同じ時を一緒に「コンGRESファミリー」を実感出来たのは生涯の宝物となる幸せでした。

「泡沫の夢」を現実にして下さって本当に有難うございました。先生達始め関わられた全ての方達へ心から感謝してお礼申し上げます。

2月13日(日)

<9:00> マスタークラス

毎年、日本チェロ協会主催で開催している「マスタークラス」を、今年はチェロ・コンGRESのプログラムの1つとして、開催いたしました。今回は、東京クワルテットのメンバーであるクライヴ・グリーンズミス氏に講師をお引き受けいただきました。

最終日の早朝にも関わらず、昨日のご出演でお疲れの中ご来場下さった方、3日間通しパスをお持ちの熱心なお客様が多く集まってくださり、熱のこもったマスター



(左) 通訳の西谷牧人さん、(中央) 講師のクライヴ・グリーンズミスさん



グレイ理沙さん

小林幸太郎さん

クラスになったのでは、と思います。通訳には、東京交響楽団主席チェリストの西谷牧人さん、司会にチェロ協会会員でコングレス実行委員の箕口一美さんがご協力くださいました。

受講者のレポート、及び当日のスケジュールをご紹介します。

受講レポート

グレイ 理沙さん (S-106)

私はチェロ・コングレスの全体アンサンブルに参加するために、昨年の秋に日本チェロ協会に入会しました。入会后、クライヴ・グリーンズミス先生によるマスタークラス開催のお知らせが届き、『せっかく参加するなら、3日間行われるチェロのお祭りにどっぷりつかって楽しみたい』と思い応募することを決めました。

当日は朝から、『先生は、どんな方だろうか、難しい質問を沢山なさるのではないかな』と不安になったり、また、チェロ・コングレスで受講曲の練習がほとんどできなかったのも、若干心配のところもありました。しかし、グリーンズミス先生は、『日曜日のこんな朝早くに良く弾いたね〜』と優しく声をかけてくださり、一気に気持ちが楽になりました。グリーンズミス先生が出す音は、その性格が表れているような優しく、柔らかい音がしていました。真横で聞く音は、これが同じチェロという楽器なのかと疑いたくなるような美しい音色で、一音聴いただけで一瞬にしてファンになってしまいました。

先生は、とても丁寧に指導してくださいました。ピブラートの使い分け、弓のスピードのこと、大ホールで弾いた時に音を一番後ろまで響かせることなど色々言われましたが、一番印象に残ったのは、『自分がやろうとしていることを全て大げさにやりなさい、そしてもっと自由に!』というアドバイスのことでした。音の強弱とか、ルバートしたところを大げさにやるだけで、随分聴き応えのある曲に変わると分かりました。それまでは、自分がどういうショパンにしたいのか分からなくなってきた悩んでいたのですが、グリーンズミス先生が所どころ弾いてくださるフレーズ、アドバイスは、全て『そう! 私はこんな感じのショパンを弾きたいの!』と思わせ、今までぼやけていたものが見えてきた気がしました。

このような機会を与えてくださった日本チェロ協会に本

当に感謝いたします。私にとって大変良い刺激を受けたレッスンであり、これからも先生のアドバイスを忘れずに精進していきたいと思います。



小林 幸太郎さん (S-060)

今回応募したきっかけは、以前室内楽のセミナーで東京クワルテットの方々の室内楽レッスンを受けた事があり、その時グリーンズミス先生に初めてお目にかかり『もし、いつか機会があればソロの曲のレッスンを受けてみたい!』と強く思ったところからです。チェロ・コングレスのプログラムでグリーンズミス先生の名前を見た時は応募の段階で胸が躍るようでした。レッスンではショスタコーヴィッチのチェロ協奏曲1番の第1楽章を見て頂き、まず最初に、この曲の背景やショスタコーヴィッチについて、当時映画音楽の作成をしていたこと、その音楽と共通なテーマがある事などをお話していただきました。第1楽章が『皮肉的なマーチ』と本人が語っていたらしく、それには僕の最初の入り方では強すぎだと指摘を受け、その後先生のおっしゃったイメージやフレーズで弾いた時には良い意味で曲に合ったグロテスクな感じ(先生がおっしゃっていました)の表現ができました。そこから先に行くと音量がfやffの所になり、弓の使う量や場所をもっと駒寄りにするなどのテクニク的なアドバイス頂きこの曲の持つ激しさの表現の仕方も学べました。今回のマスタークラスでは、より曲への理解、関心が深まり、またそれを表現する上で大切なテクニックを教わる事ができて非常に素晴らしい経験が出来たと思っています。まだそれらを習得できてはいませんが、この経験を活かしてこれからも頑張っていきたいと思っています。また、今年は素晴らしいチェロ・コングレスの3日間でした。自分が参加させて頂けたことも大変嬉しく思っています。事務局の皆様にはとてもお世話になりました。有難うございました。

<14:00>

リレー・コンサート

3日間の最後を飾る演奏会は、日本を代表する11人の演奏者が次々に演奏するという、リレー形式のコンサートです。超満員の会場には、他のプログラムに出演されたプロの方々も見受けられました。終了後に感想を伺うと『色々な意味で、凄くいい刺激を受けました』『客席側で聴くだけではなく、私もステージ側で演奏したいと心から思ったコンサートでした』とのことでした。

最初は、1回の予定だったカーテンコールも、コンサートの中盤からはどうしても鳴り止まない拍手のために2回となり、その余韻が落ち着く間もなく次の演奏が始まるという、何とも贅沢な演奏会でした。



リレーコンサート 総出演者



小川剛一郎さん



斎藤建寛さん



松波恵子さん



千本博愛さん



長谷川陽子さん



藤森亮一さん



荻田雅治さん



宮田 大さん



山崎伸子さん



堀 了介さん



堤 剛さん

演奏会の終わりには、出演者全員がもう一度舞台に出てご挨拶です。その豪華な顔ぶれをもって、3日間のプログラムが全て終了となります。

＊

参加者の方から、次のようにお言葉を頂いたのでご紹介いたします。

「もしかしたらこのような企画は、お金を沢山かければ別でしょうが他の主催者では実現が難しいのかもしれませんが。チェロ協会だからこそ、このリレー・コンサートが実現したのかもしれませんが。リレーのアンカーはチェロ協会の堤剛会長で、この日唯一ピアノ伴奏がない、バッハのシャコンヌが演奏されました。当日終演後の懇親会で堤会長は『バッハの無伴奏で始まって、バッハの無伴奏で終わる三日間という、素敵なアイデアをスタッフが考えてくれました』と仰っていました。そう、素晴らしい演奏と、それを支えるスタッフがいてこそこのコングレスなのでしょう。次回はいつ、どのような形で開催されるのかわかりません（3年後にアジア規模で開催という噂もあります）が、チェロ協会の会員としてコングレスを楽しむだけでなく、一緒に作っていくような楽しみもありそうです。次の企画が発表されたら、私にどんな協力ができるのか考えてみようと思います。」

＊

3日間を通して、2000人以上の方にご来場いただき、300人以上のチェリストが集いました。この、チェロ・コングレスを通じて、若手からベテラン、プロ、アマチュアと様々なチェリストが一堂に会して相互研鑽を深め、チェロとチェロ音楽の幅広い魅力やさらなる可能性を多

くの方に伝えることができたイベントになったのではないのでしょうか。これも、ご出演・お手伝いくださったみなさまのおかげと、実行委員一同感謝の気持ちでいっぱいです。

改めまして、ご出演のみなさま、ご来場くださったみなさま、また、常に協会を支えてくださる会員のみなさまに御礼申し上げます。

事務局より

○新年度会員更新のお願い

4月より新年度となりますので、会員の更新をお願いいたします。詳細は同封のご案内をご覧ください。ご入金確認後、本年度の会員証をお送りします。どうぞ宜しくお願いいたします。

編集後記

チェロ・コングレス開催のちょうど1ヵ月後、東日本で大震災が発生しました。被災された方、ご家族・ご友人が被災されたみなさまにお見舞い申し上げますとともに、犠牲になられた方々のご冥福をお祈り申し上げます。

多くの会員の方がチャリティー活動・演奏にご尽力されていると伺っています。少しでも早い復興と、そして、音楽が少しでも心の健康を取り戻す助けになればと願うばかりです。

チェロ・コングレスでは多くの会員の皆様にお目にかかることができました。大きな困難を乗り越え、また皆さまの元気なお姿を拝見できればと思います。

日本チェロ協会会報（JCS NEWS）第35号

2011年4月30日発行

発行：日本チェロ協会

東京都港区赤坂1-13-1 サントリーホール内

電話 03-3505-1991 FAX 03-3505-1007

発行人：堤 剛

編集：日本チェロ協会事務局

編集協力：リュウカンパニー